

# 彫刻作品の制作を通し、現代美術・現代彫刻における表現の可能性と方向性の研究

造形短期大学部  
造形芸術学科  
教授

小田部 黄太



## 研究シーズの紹介

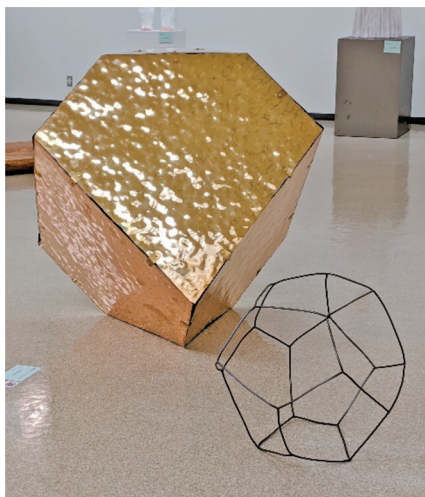
本研究は、主に鉄、銅、真鍮などの金属を用いた彫刻の制作を通し、現代美術における彫刻、あるいは立体表現の可能性と表現方法について研究するものである。ここ数年は「関係性について」というテーマで制作を行っているが、関係性とは、作者と作品、作品と鑑賞者、材質とフォルム、物理的な存在と認識される存在、という様なところであろう。私にとっての彫刻とは存在することであり、必然的に「存在」がテーマであ

る。存在とは当然物理的な存在と考えられるが、人にとってはその存在を認知することで、その物体が存在することになると考えることができる。現在の着眼点は物理的な存在と人が認知する存在の差異といったところである。例えば、薄い銅板で構成された作品が、塊的な存在に見える等といったことである。



### 存在の本質

- 彫刻とは表現であるので存在を表現するということ。
- 存在が材質とフォルムで構成されると考えれば、彫刻家にもチャンスがある。



### 「関係性についてーメランコリア」

福岡県美術展－会員の部  
平成2年9月 福岡県立美術館

## 期待される活用シーン

美術館・ギャラリー

- 現代彫刻における新たな表現展示作品として、企画展覧会等への展開



現代美術の今後の方向性へのひとつの道筋を示す

企業等

- 企業の建物等での現代美術作品の展示
- 企業としての文化的取り組み



ソサエティ5.0社会を見据え、企業としての文化的な取り組みの方向性を示す

### その他の研究テーマ

現代社会における公共造形物、モニュメント、記念碑等の制作に関する研究